

## 令和5年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育部会議事録

### 1 期 日

令和6年1月30日（火） 19:00～20:30

### 2 場 所

教育センター 4階大研修室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

計倉哲也部会長、中川義秀副部会長、百瀬和夫委員、伊藤憲浩委員  
奥野敬子委員、小紫昭子委員、金鹿功委員、小林誠和委員  
田中良季委員、浅和直子委員、田中啓規委員、神吉知子委員  
大田亜由美委員、土出麻美委員

#### (2) 事務局

田中学校教育課課長、計倉教育センター所長、穂積青少年センター所長、  
平田子どもいじめ防止センター長、河賀小中一貫教育推進室主査、  
藤原生涯学習課係長、伊藤学校教育課主査

### 4 部会長・副部会長紹介

計倉哲也部会長、中川義秀副部会長

### 5 委員自己紹介

### 6 協議事項

家庭・地域・学校が一体となった人づくりに関すること

#### (1) 事例及び現状

- ・コミュニティ・スクール1年目のあゆみについて
- ・地域と学校の連携・協働体制推進事業について
- ・青少年の健全育成に係る取組状況について

#### (2) 意見交換

司 会： 事務局の説明についてご質問やご意見をお願いしたい。

委 員： 来年度以降もコミュニティ・スクールを広げていくということ  
ですが、どのように広げていくか教えてほしい。

事務局： 来年度に別所小・中学校と自由が丘中学校、再来年度に三木中学校と三木東中学校に導入予定です。小学校に向けても前向きに導入を進めていけるように計画中です。

委員： コミュニティ・スクールを導入して「人と繋がる力みたいなことに関する成果」と「実際にコミュニティ・スクール運営上でコミュニケーションがうまくとれているのかどうか」を教えてください。

事務局： 中学生と地域の方が、一緒に活動したことを覚えていたり、ボランティアを進めていく中で地域同士、大人のコミュニケーションが増えているように感じたりしています。コロナ禍もあり、地域の方が学校の様子がわからない部分もあったので、まずは学校を知るというところからスタートし、積み上げている状況です。

委員： 今年度実施した性教育や習字、水墨画教室などの取組はとても良かった。来年度以降も、継続して取り組んで欲しいと思っている。

司会： 1年1年の単発的な取組ではなく、持続可能な形でこれからも継続していけるように、地域・家庭・学校が連携した取組が必要である。

委員： 持続可能な取組にするため、トライやる・ウィークをうまく活用出来るのではないかと思っている。

委員： 色々な活動に支援していただけるボランティアの方の「やりがい」だけに頼るのではなく、双方にメリットがある取組になっていくことが大切だと思う。

委員： 三木北高校はユネスコスクールということで、活動の場、ボランティアの場所、地域、公共の場を求めています。ですから三木北高校の教師とか、生徒とかを使ってください。

委員： 初年度でやってみた結果を広報に載せて発表するとかの計画は持っているか？

事務局： 広報みきの特集号で全戸配布しています。また、緑が丘中学校で2回、吉川小・中学校で3回、校区内ではあるが、広報誌による周知を図っています。

委員： ネットトラブル等で大きな事案は起こっていないですか？

事務局： 大きな事案は無いです。気になる事案として、学校に2件紹介させていただきました。

委員： 子どもがちゃんとタブレットで勉強宿題をしたのかどうかを、親がチェックするようなシステムを作ってもらえないか？

事務局： 自分で課題を選んで、自分でやるべき宿題を見い出してすることが出来る子どもたちを育てたいと思っています。そのため、保護者のスマホでもチェックできる機能を求めることは、今のところ検討はしていません。

委員： いじめに関して、どこにも相談できない子どもたちを助ける方法を考えてもらいたい。

事務局： いじめ防止センターでは、メール相談もできますので、一人1台を利用して一方を入れてもらえればと思います。

委員： 学びの主体は子どもにあるので、意識の転換をしないといけない。教育は今、明治維新以降の大改革の中にいる。コミュニティ・スクールもその一つである。新たなことを始めているので、子どもも大人もお互いにコミュニケーションとってやったら良くなると思う。

一方的に教え込む授業が重要ではなく、自分たちでやる子どもを育てる教育が必要であることを掴んだまま、前進したいと思っている。

## 7 閉会あいさつ（副部会長）